

令和元年6月25日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01983

研究課題名(和文) 定言命法を実現するための技術的仮言命法の可能性 その理論と実践

研究課題名(英文) Possibility of Hypothetical Technological Imperatives to Realize the Ends of Categorical Imperative -Theory and Practice-

研究代表者

小野原 雅夫 (Onohara, Masao)

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号：70261716

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：基礎理論に関しては、カント実践哲学のなかに「定言命法を実現するための技術的仮言命法」を見出すことができることを論証した研究を系統的に発表することができた。

実践面に関しては、2011年から開催している「てつがくカフェ@ふくしま」を月1回のペースで開催し続け、対話のルールや開催方法を参加者の方々とともに改善することができた。また、最後の2年間には、福島県教育委員会主催で高校生による哲学カフェを開催し、その成果を承けて2019年度より福島大学で基盤教育科目として「哲学カフェ」を開講する準備を整えた。

実践を検証する研究として、哲学カフェの成果や有効性、方法論等について検討する理論研究をまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「定言命法を実現するための技術的仮言命法」という研究はこれまでまったくなされておらず、世界初の研究となる。これによりカント実践哲学を現代においても応用可能な学として再生していく方略が示された。しかも、それをたんにカントの文献研究として行うのではなく、哲学カフェという具体的な思想運動を実践し福島の地に根付かせつつ、その有効性を検証したことによって、現実社会への具体的な影響力を持ちうる研究となった。

研究成果の概要(英文)：In my papers, I argued that there can be found hypothetical technological imperatives to realize the ends of the categorical imperative in Kant's practical philosophy. In practice, we have held "Tetsugaku Cafe @ Fukushima" once a month in Fukushima City. We revised "The Rules of Dialogue of Tetsugaku Cafe @ Fukushima" and some methods of holding our cafe through dialogues with its participants. In 2017 and 2018, I took over as the facilitator of the High School Students' Tetsugaku Cafe held by Fukushima Prefectural Board of Education. Its success led me to offer a new class of "Tetsugaku Cafe" in Fukushima University since 2019. In my papers, I verified the effects and methods of Tetsugaku Cafe as hypothetical technological imperatives to realize the ends of the categorical imperative.

研究分野：倫理学

キーワード：哲学カフェ 哲学プラクティス 子どものための哲学 定言命法 技術的仮言命法 カント

1. 研究開始当初の背景

カントの「仮言命法」はカント自身によって「定言命法」に光を当てるための陰の存在として対置されていた。カント実践哲学の中で仮言命法がポジティブな意味で脚光を浴びることはほとんどない。したがって、カント倫理学研究においても仮言命法が正面切って取り上げられることはほとんどなかった。しかし、定言命法が道德的目的を課すのだとするならば、その道德的目的をいかにして現実世界において実現したらいいかを指図する仮言命法が必要となるはずである。カント自身はそのような定言命法の下で働く技術的仮言命法について明示的に論じたことはなかったが、申請者は、カントの実践哲学の中にそうした仮言命法を見出すことができると予想した。

また、カントを離れて現実の世界においても、定言命法を実現するための技術的仮言命法というものが必要になると考え、哲学カフェ等の思想運動がそうした技術的仮言命法となりうるのではないかという予想の下に、2011年より「てつがくカフェ@ふくしま」を毎月1回開催してきていた。

2. 研究の目的

本研究は、定言命法と仮言命法を二元的に対立させて捉えるのではなく、定言命法が命じる抽象的な道德的目的を、現実世界の中で実現させていくための技術的仮言命法というものの可能性を探究していく。そのために理論的側面と実践的側面からアプローチしていく。

まずカント実践哲学の中に、カント自身が明示的には語らなかった「定言命法を実現するための技術的仮言命法」が見出されないかを理論的に検討していく。場合によってはカント実践哲学の大胆な読み替え等も必要になるかもしれないが、それによってカント実践哲学を現代において再生させる方途を探っていく。

次に現実世界における「定言命法を実現するための技術的仮言命法」の実践として、地域の中に着実に根付いた「てつがくカフェ@ふくしま」を継続的に開催していく。加えて、哲学カフェを教育の場に置き移した「子どものための哲学 (Philosophy For Children)」という試みを教育現場に導入する有効な手立てを探り、福島の地で哲学的対話を足場にした市民育成のシステムを構築することを目指す。

第3に、哲学カフェ等の思想運動がもつ有効性を検証し、よりよい方法論を編み出していくための理論的検証を行う。

以上のような理論と実践の往還によって、これまで相互に関連させて総合的に研究されることのなかった定言命法と仮言命法との間の立体的・構造的な関係をあぶり出していく。

3. 研究の方法

上記の目的を達するために下記のような方法を試みた。まずは最新の研究文献の収集。その上で理論的研究を推進し、カント自身がそのように明言していなくとも、「定言命法を実現するための技術的仮言命法」とみなすことのできるものがカントの著作の中に見出されないかを検討し、研究論文を執筆していった。また、静岡で始まった「死生学カフェ」を視察したり、「ネオ・ソクラティック・ダイアログ」の研修を受けたりするなど、各地の思想運動の現場を体験した。それらを踏まえて「てつがくカフェ@ふくしま」を継続的に開催していくとともに、「びえもカフェふくしま (死生学カフェ)」や「てつがくカフェ@あいづ」など新たな活動の立ち上げを模索した。また、哲学プラクティスの実践者とともに哲学カフェの有効性や方法論を検証する研究を推進するとともに、その道の第一人者から「子どものための哲学」に関するノウハウを学び、福島の地における実現に向けて取り組んだ。

4. 研究成果

基礎理論に関して、2019年2月に出版された共編著『哲学の変換と知の越境 伝統的思考法を問い直すための手引き』は、16人の研究者による共同研究の成果であるが、その全体が「定言命法を実現するための技術的仮言命法」と呼ぶべき新しい知のあり方を提案するものとなっている。そこに寄稿した研究代表者本人の論文「新たな選択肢の創出 二者択一的倫理学から創造的問題解決の倫理学へ」は、カント実践哲学や、カントの晩年における筆禍事件に対する対応のなかに「定言命法を実現するための技術的仮言命法」を読みとっていく試みであり、2017年に『日本カント研究18』に掲載された「3.11後の「公共」とカント的公共性との闘い」とともに、本科研費研究における基礎理論的側面での集大成とすることができる。

実践面に関しては、定言命法を実現するための技術的仮言命法の一環として2011年から開催している「てつがくカフェ@ふくしま」を、この4年間毎月1回のペースで開催し続けることができた。上述したように、「びえもカフェふくしま」や「てつがくカフェ@あいづ」といった新しい団体を立ち上げることもできた。「てつがくカフェ@ふくしま」は2017年に世話人の1人が引退したことを機に活動形態を変えなければならなくなったが、世話人主導ではなく、少しずつ参加者主体の組織運営へと発展を遂げることができた。参加者の方々との対話を通じて

対話のルールを改訂したり、記録作成方法やアフタートークの開催方法について参加者の方々から新しいアイデアがどんどん出され、それ自体が民主主義を実現していくための技術的仮言命法の追求過程であった。また、2018年には福島市において市民を分断する騒動「サン・チャイルド問題（ヤノベケンジ氏の美術作品が公共空間に展示されることになったものの反対運動にあいほんの1ヶ月で撤去された事件）が突如発生したが、「てつがくカフェ@ふくしま」ではこの問題を3回にわたって取り上げ、賛否両論ある問題においていかに合意を形成していったらいいかについて深く話し合うことができ、これも実践面における集大成と呼ぶべき成果となった。なお、科研費申請の段階では、2011年からブログに掲載されてきた毎月のてつがくカフェ@ふくしまの記録をまとめて科研費報告書を作成することを予定していたが、上述した世話人の引退に伴う著作権の関係で科研費報告書の作成は断念せざるをえなくなった。

2017年、2018年には、福島県教育委員会主催で高校生による哲学カフェを開催し、その企画・運営を手がけることができた。それぞれ県内全域から集まってきた21名、47名の高校生たちが初参加にもかかわらずその場で熱い哲学的対話を繰り広げてくれた。その成果を承けて2019年度より福島大学で基盤教育科目として「哲学カフェ」を開講する準備を整えた。

実践を検証する研究として、哲学カフェの成果や有効性、方法論等について検討する理論研究をまとめた。2015年の『てつがくカフェ@ふくしま』における哲学的対話の支援の試み」と、2017年の「市民とともに『哲学する』とは？」は主に方法論の面に光を当てた研究であり、いかにしたら哲学的対話を活性化することができるのか、その際に哲学研究者が果たすべき役割等について分析した。2015年の「民主主義の危機と哲学的対話の試み」は、哲学カフェという手法（運動）が民主主義の再生のためにどれほどの意義をもちうるかを論じた。また、上述した2017年の「3.11後の『公共』とカント的公共性との闘い」においては、カント実践哲学とも関連させながら「てつがくカフェ@ふくしま」の現代的意義と有効性、ならびにその限界についても論じ、本研究の全体を総括するような理論的研究となっている。

「定言命法を実現するための技術的仮言命法」という研究はこれまでまったくなされておらず、世界初の研究である。これによりカント実践哲学を現代においても応用可能な学として再生していく方略を示すことができたと思われる。しかも、それをたんにカントの文献研究として行うのではなく、哲学カフェや「子どものための哲学」という具体的な思想運動を実践し福島の地に根付かせつつ、その有効性を検証したことによって、現実社会への具体的な影響力を持ちうる研究となったと言えるのではないだろうか。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

小野原雅夫, 「3.11 後の『公共』とカント的公共性との闘い」, 日本カント協会『日本カント研究』, 査読有, No.18, 38-51, 2017.

齋藤元紀, 梶谷真司, 小野原雅夫, 「市民とともに『哲学する』とは?」, 法政哲学会『法政哲学』, 査読無, 第13号, 37-50, 2017.

小野原雅夫, 「『てつがくカフェ@ふくしま』における哲学的対話の支援の試み」, 東北哲学会『東北哲学会年報』, 査読有, No.32, 15-30, 2016.

小野原雅夫, 「《法の定言命法》の体系」, 『福島大学人間発達文化学類論集』, 査読無, 第21号, 41-49, 2015.

〔学会発表〕(計 4 件)

小野原雅夫, 「避難と帰還をめぐる分断——『てつがくカフェ@ふくしま』における対話より」, 日本倫理学会第68回大会, ワークショップ「東日本大震災から見えてきたこと」, 2017.10, (弘前大学).

小野原雅夫, 「3.11 後の『公共』とカント的公共性の闘い」, 日本カント協会第41回学会, シンポジウム「3.11 後の公共とカント」, 2016.11, (福島大学).

小野原雅夫, 梶谷真司, 齋藤元紀, 哲学カフェ@法政哲学会「市民とともに『哲学する』とは?」, 法政哲学会第36回大会, 2016.5, (法政大学).

小野原雅夫, 「『てつがくカフェ@ふくしま』における哲学的対話の試み」, 東北哲学会第65回大会, 2015.10, (福島大学).

〔図書〕(計 3 件)

牧野英二, 小野原雅夫, 山本英輔, 齋藤元紀編(共著), 『哲学の変換と知の越境——伝統的思考法を問い直すための手引き』(第13章「新たな選択肢の創出——二者択一的倫理学から創造的問題解決の倫理学へ」210-226), 法政大学出版局, 2019.

牧野英二編，小野原雅夫他（共著），『新・カント読本』（第13章「道德法則と法の定言命法
『人倫の形而上学』と倫理学の課題」168-181），法政大学出版局，2018．

齋藤元紀編，小野原雅夫他（共著），『連続講義 現代日本の四つの危機 哲学からの挑戦』（第
5講「民主主義の危機と哲学的対話の試み」115-140），講談社選書メチエ，2015．

〔その他〕

ホームページ等

ブログ「てつがくカフェ@ふくしま」<https://blog.goo.ne.jp/fukushimacafe>

facebook「てつがくカフェ@ふくしま」<https://www.facebook.com/Tetsugakukafefukushima/>